

特定非営利活動法人オオサンショウウオと暮らすまちづくり会定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人オオサンショウウオと暮らすまちづくり会という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を広島県東広島市鏡山1丁目1番1号広島大学総合博物館事務室に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、オオサンショウウオとそれを取り巻く自然環境の保全及び復元を目指し、調査研究を行うとともに、県内に住む子どもたちや県内外に住む方に対し、保全意識を醸成するための普及啓発事業を幅広く行い、人とオオサンショウウオが共生する持続可能な社会の実現に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (4) 環境の保全を図る活動
- (5) 子どもの健全育成を図る活動
- (6) 科学技術の振興を図る活動
- (7) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) オオサンショウウオ及びその生息環境の保全及び復元に係る調査・研究・普及啓発事業
- (2) 研究者や行政・民間などとの交流事業

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会し、活動を推進する個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、賛助の意志を持つ個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 理事長は、前項のもの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、理事会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既納の入会金、会費及びその他の抛出金品は、返還しない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上
 - (2) 監事 1人以上
- 2 理事のうち、1人を理事長、1人を副理事長とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反す

る重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、任期満了前に、総会において後任の役員が選任された場合には、当該総会が終了するまでを任期とし、また、任期満了後後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終了するまでその任期を延長する。

3 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) 職務の遂行に堪えない状況にあると認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

2 職員は、理事長が任免する。

第5章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

(1) 定款の変更

(2) 解散

(3) 合併

- (4) 事業報告及び活動決算
- (5) 役員の選任又は解任

(開催)

第24条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第25条 総会は、前条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は社員が総会の目的である事項について提案した場合において、社員の全員が書面により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

(表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、前2条、次条第1項及び第51条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあつては、その数を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名（記名押印）しなければならない。
- 3 前2項の規定にかかわらず、正会員全員が書面により同意の意思を表示したことにより、総会の決議があったものとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
 - (1) 総会があったものとみなされた事項の内容
 - (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
 - (3) 総会の決議があったものとみなされた日
 - (4) 議事録の作成に係る職務を行う者の氏名

第6章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第32条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (2) 役員の職務及び報酬
- (3) 入会金及び会費の額
- (4) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第50条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (5) 事務局の組織及び運営
- (6) その他運営に関する重要事項
- (7) 総会に付議すべき事項
- (8) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (9) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から10日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第36条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名（記名押印）しなければならない。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第40条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産の1種とする。

(資産の管理)

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第43条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計の1種とする。

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第47条 予算作成後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第48条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第49条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(臨機の措置)

第50条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第51条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する事項を変更する場合には、所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第52条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第53条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会の議決により選定された団体に譲渡するものとする。

(合併)

第54条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第55条 この法人の公告は、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、内閣府NPOポータルサイト(法人情報入力欄)に掲載して行う。なお、法第31条の10第4項及び法第31条の12第4項に規定する公告については、官報に掲載して行う。

第10章 雑則

(細則)

第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	清水則雄
副理事長	山崎大海
理事	三宅将己
監事	三澤久子
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から令和8年3月31日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第49条の規定にかかわらず、成立の日から令和7年3月31日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。
 - (1) 正会員(個人) 入会金 5,000円 年会費 1,000円
 - (2) 正会員(団体) 入会金 10,000円 年会費 2,000円
 - (3) 賛助会員(個人) 入会金 0円 年会費 3,000円
 - (4) 賛助会員(団体) 入会金 0円 年会費 5,000円

役員名簿

特定非営利活動法人オオサンショウウオと暮らすまちづくり会

役職名	(ふりがな) 氏 名	住 所 又 は 居 所	報酬の有無
理事長	しみず のりお 清水 則雄		無
副理事長	やまさき ひろみ 山崎 大海		無
理事	みやけ まさみ 三宅 将己		無
監事	みさわ ひさこ 三澤 久子		無

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

世界最大級の両生類であるオオサンショウウオは、1952年に指定を受けた国の特別天然記念物である。分布の中心は、中国地方の山間部であり、広島県においては山深い渓谷だけでなく、里山と呼ばれる地域で、民家に隣接した河川にも生息してきた。

特別天然記念物とは、文化財保護法において、学術上価値が特に高い動植物等が指定されているもので、この法の主旨は、国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することにある。ニホンカワウソやトキ等は特別天然記念物に指定されていたにもかかわらず、既に絶滅（野生絶滅）してしまっているが、特別天然記念物の絶滅は、文化財保護の観点から見ても、国民の文化的向上及び世界文化の進歩にも負の影響を及ぼすものであり、絶対に避けるべき事態である。

東広島市においては、長年、地域でオオサンショウウオの調査が行われてきたが、過疎化・高齢化の進行とともに、次第にその存在を知る住民は少なくなっていく。その結果、オオサンショウウオの生息に適さない河川改修工事が進行し、棲み処となる自然の土手の減少や、堰等の遡上不可能な構造物の設置により河川内の移動が分断され、繁殖が阻害されている事例が多く確認されている。さらに、昨今の記録的な豪雨による出水により、オオサンショウウオが生息地から流出し、個体数の減少が加速している現状にある。

こうした状況を受け、広島大学、自治体（東広島市）、地域住民が連携し、2011年から、調査による生息実態の把握、学校等での保全教育や観察会の開催、普及啓発用の冊子や書籍の発行等の様々な普及活動を続けてきた。活動開始から12年が経ち、一定の成果は上がっているものの、河川環境改善等の根本的な解決には至っていないほか、メンバーの高齢化等で活動が停滞し、認知度が低下すれば、再び生息に不向きな河川改修等が起こりかねない。百年を生きるといわれるオオサンショウウオの持続的な保全体制の構築が不可欠である。

こうした課題を受け、この度、長年活動を続けて来たメンバーの有志により、NPO法人を設立することとした。先述のように、持続的な保全体制の構築が極めて重要であることから、法人設立後は「子どもたちによる保全チームの結成・運営」に取り組むこととしている。具体的には、小中高校生を対象に、平日放課後に座学で生態や現状を学べる講座を、休日や春夏秋冬休業中には観察会・フィールドワークを継続的に行うことで、若い世代が保全の担い手となる機会を提供する。そして、この事業に関わった小中高校生が、大学生、社会人となった後も、NPO法人の会員や職員として次の世代を育てていくことで、持続的な保全体制を構築することを目指す。

以上の事業を実施するにあたり必要となるのは、①フルタイムで事業に従事できる職員、②それを雇用できるだけの活動資金を集められる組織、③保護者にとって子どもたち安心して任せられ社会的信頼性の高い事業主体の3点である。これまでの活動の成果として、事業に参加したい子どもたちが多くいることは確認できたが、仕事の傍らで行

うボランティアの活動では、この3点の課題を解決することができず、最も必要であるはずの次世代の継続的な育成事業を実施できないでいた。

この度のNPO法人設立は、これらの課題を解決し、国民の文化的財産である特別天然記念物オオサンショウウオを将来の世代へと繋ぐための極めて重要な一歩である。

2 申請に至るまでの経過

- 2011年～ 広島大学総合博物館・東広島市・地域住民が連携し調査を実施
- 2012年～ 市民を対象とした野外観察会を開催
- 2013年～ 東広島市立豊栄小学校で環境教育の授業を開催
- 2014年9月 日本オオサンショウウオの会東広島大会を開催
- 2023年～ 東広島市立豊栄中学校で環境教育の授業を開催
- 2024年4月7日 特定非営利活動法人オオサンショウウオと暮らすまちづくり会の設立総会を開催

令和6年4月7日

特定非営利活動法人オオサンショウウオと暮らすまちづくり会

設立代表者

清水則雄

令和6年度事業計画書

特定非営利活動法人オオサンショウウオと暮らすまちづくり会

1 事業実施の方針

オオサンショウウオの保全を目的とした普及活動に重点を置き活動を行う。市内の小中高生を対象に、平日は座学による保全についての講座を開講、休日や学校の春夏秋冬休業中はフィールドワークを実施する。これにより、本会設立の目的である「持続可能な保全体系の構築」の第一歩となる、若い世代による保全チームの結成を当面の目標とし、10月頃から実施する。また、ふるさと納税制度を活用した返礼品観察会の開催に向けた準備を進める。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	事業費の 支出見込額 (単位：千 円)
オオサンショウウオ及びその生息環境の保全及び復元に係る調査・研究・普及啓発事業	①生息状況等の調査 ②野外観察会 ③保全に関する講座の実施及びフィールドワーク	①通年 ②隔週1回 ③週4回	①広島県内河川 ②東広島市豊栄町 ③東広島市	①5 ②5 ③3	①広く国民 ②県内外在住者100人 ③東広島市内の小中高生100人	39
研究者や行政・民間などとの交流事業	他の保全団体や自治体と情報交換	通年	東広島市	1	広く国民	0

令和7年度事業計画書

特定非営利活動法人オオサンショウウオと暮らすまちづくり会

1 事業実施の方針

二年度目も初年度と同様、普及活動に重点を置き活動を行う。市内の小中高生を対象に、平日は座学による保全についての講座を開講、休日や学校の夏冬春季休業中はフィールドワークを実施する。事業実施に係る資金については、ふるさと納税制度を活用し返礼品として野外観察会を開催するとともに、市外でも講演会等を行うことで活動の認知度を高め、更なる活動資金の獲得を目指す。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	事業内容	実施 予定 日時	実施 予定 場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	事業費の 支出見込額 (単位：千 円)
オオサンショウウオ及びその生息環境の保全及び復元に係る調査・研究・普及啓発事業	①生息状況等の調査 ②野外観察会 ③保全に関する講座の実施及びフィールドワーク	①通年 ②隔週1回 ③週4回	①広島県内河川 ②東広島市豊栄町 ③東広島市	①5 ②5 ③3	①広く国民 ②県内外在住者200人 ③東広島市内の小中高生100人	3,161
研究者や行政・民間などとの交流事業	他の保全団体や自治体と情報交換	通年	東広島市	1	広く国民	0

設立当初の事業年度 活動予算書
 法人成立の日から令和7年3月31日まで
 特定非営利活動法人オオサンショウウオと暮らすまちづくり会
 (単位：円)

科目	金額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	60,000		
賛助会員受取会費	0	60,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	0		
施設等受入評価益	0	0	
3 受取助成金等			
受取民間助成金	0	0	
4 事業収益			
調査・研究・普及啓発事業収益	0		
交流事業収益	0	0	
5 その他収益			
受取利息	0		
雑収益	0	0	
経常収益計			60,000
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費	0		
旅費交通費	39,000		
施設等評価費用	0		
減価償却費	0		
支払利息	0		
その他経費計	39,000		
事業費計		39,000	
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
会議費	0		
旅費交通費	0		
減価償却費	0		
支払利息	0		
租税公課	21,000		
その他経費計	21,000		
管理費計		21,000	
経常費用計			60,000
当期経常増減額			0
III 経常外収益			
1 固定資産売却益		0	
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
1 過年度損益修正損		0	
経常外費用計			0
当期正味財産増減額			0
設立時正味財産額			0
次期繰越正味財産額			0

令和7年度 活動予算書
 令和7年4月1日から 令和8年3月31日まで
 特定非営利活動法人オオサンショウウオと暮らすまちづくり会
 (単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	10,000	
賛助会員受取会費	30,000	40,000
2 受取寄附金		
受取寄附金	0	
施設等受入評価益	0	0
3 受取助成金等		
受取民間助成金	0	0
4 事業収益		
調査・研究・普及啓発事業収益	3,200,000	
交流事業収益	0	3,200,000
5 その他収益		
受取利息	0	
雑収益	0	0
経常収益計(A)		3,240,000
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	2,306,000	
法定福利費	385,000	
退職給付費用	0	
福利厚生費	320,000	
人件費計	3,011,000	
(2) その他経費		
会議費	0	
旅費交通費	150,000	
施設等評価費用	0	
減価償却費	0	
支払利息	0	
その他経費計	150,000	
事業費計		3,161,000
2 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬	0	
給料手当	0	
法定福利費	0	
退職給付費用	0	
福利厚生費	0	
人件費計	0	
(2) その他経費		
会議費	5,000	
旅費交通費	5,000	
減価償却費	0	
支払利息	0	
租税公課	21,000	
その他経費計	31,000	
管理費計		31,000
経常費用計(B)		3,192,000
当期経常増減額(A)-(B)		48,000
III 経常外収益		
1 固定資産売却益		0
経常外収益計(C)		0
IV 経常外費用		
1 過年度損益修正損		0
経常外費用計(D)		0
①当期正味財産増減額(A)-(B)+(C)-(D)		48,000
②前期繰越正味財産額		0
次期繰越正味財産額(①+②)		48,000